

経営比較分析表（令和6年度決算）

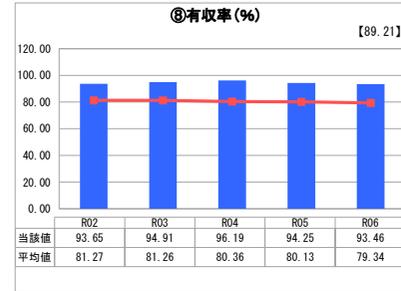
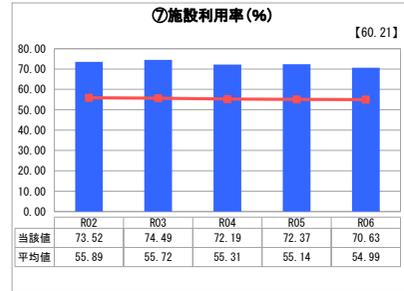
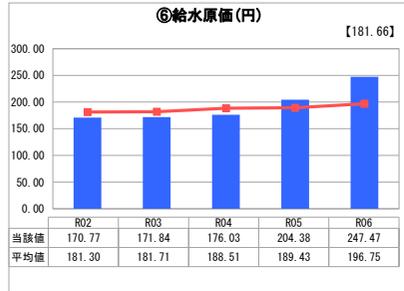
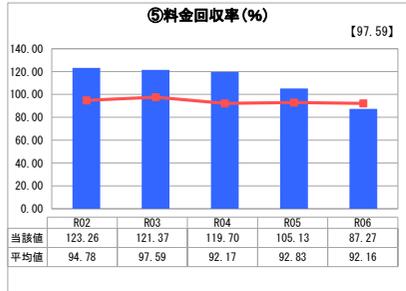
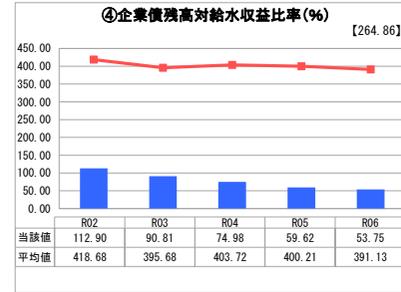
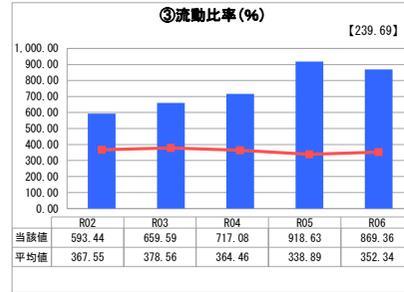
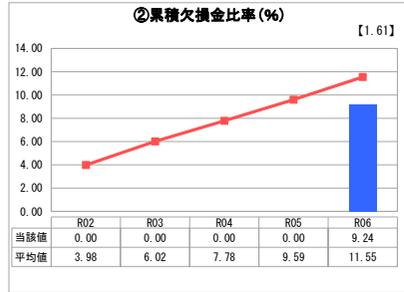
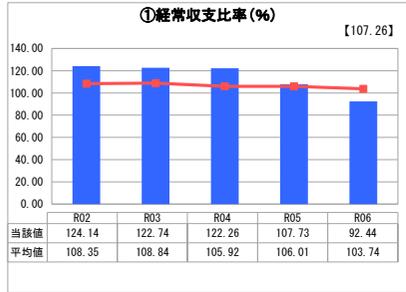
千葉県 長門川水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	92.59	13.43	4,070	

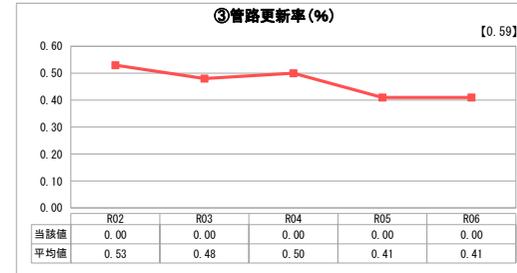
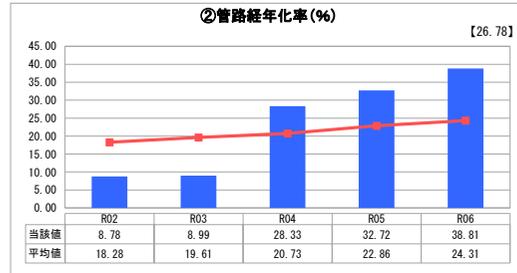
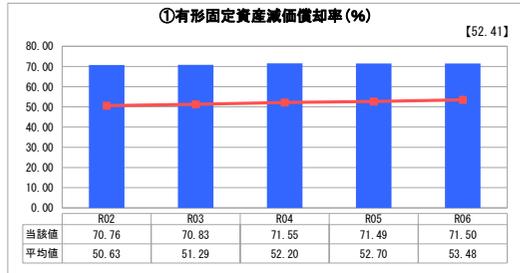
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,640	36.50	483.29

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率の低下は、委託料や修繕費などの経常費用が増加傾向であるためである。今後も増加する見込みであるため料金改定を検討しなくてはならない。
 ② 累積欠損金比率は、令和6年度決算で純損失を計上したために発生しているが、利益積立金からの繰入により解消している。
 ③ 流動比率は良好な数値であるが、近年の状況として施設の更新に伴い預金残高の減少が続いており、財源確保に注意していく必要がある。
 ④ 企業債残高は、類似団体より低い状況ですが、施設等の老朽化による更新事業を予定しているため今後上昇の見込みです。
 ⑤ 料金回収率は100%を下回っており、費用を賄うことができていない状況である。
 ⑥ 給水原価の増加は、老朽化の更新、物価高騰の影響を受けた支出の増加によるものです。
 ⑦ 施設利用率は類似団体と比べると高いが、給水人口の減少や節水器具の普及により配水量が減少傾向にあります。
 ⑧ 有収率は、類似団体より高い水準で推移しています。高い有収率を維持するために、漏水の多い地区の配水管の布設管を実施しており、また、漏水の通報等に対して速やかに修理をし無駄な水を生じさせないようにしています。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、法定耐用年数に近い施設等が多く、類似団体平均値と比べると高くなっている。これは、必要な更新を先送りしてきたことが伺える。
 ② 管路経年率は、類似団体平均値を上回っており、拡張事業で布設した配水管が法定耐用年数を超え、増加する傾向にある。
 ③ 管路更新率については、過去5年において管路は未更新であるため、計画的な更新が求められている。

全体総括

今後の見通しとしては、大幅な収益の増加が見込めない中で、施設の老朽化、耐震化等による更新需要が高まることが想定される。
 そのような状況の中でも水道事業を持続可能とするため、経営戦略などに基づく計画的・効率的な事業経営を実施していくことが重要である。
 また、将来にわたって経営の健全性を維持するため、水道料金の改定を検討する必要がある。